

九月十九日

七時起床。「歴史と技術研究会」の骨子をボンヤリ考える。技術、特に建設技術と歴史の関係を考えながら、それを現代にいかを持ち込めるか。批評と理論小委員会と双子形式の研究会として発足させられぬか。人間（メンバー）は難波さんに任せよう。保存・再生技術のような事から入れると良いのではないか。歴史的事柄と先端技術の共存イメージを示せるかどうか。広島県の方々のカンボジア視察が決まったようで、ひろしまハウスが前向きな支援をいただけるようになる嬉しいのだが。こちらはこちらで努力したい。広島の方から、カンボジアの絵葉書が完成したとの事で送っていた。こういう積み重ねを沢山試みてゆこう。完成予想図を平岡さんに送らねばならないのだが、中々難しい。すぐ送りますと言った切りになっていて、これが私の悪いクセだ。十六時半過、千駄ヶ谷へ。加納西谷佐藤入江新主任と機械山川先生と会食。学部再編の件。

九月二〇日

朝、徳子、友美から昨夜の柄谷行人・磯崎新等の会の話し聞く。行きたかったのだが学科の件があって、残念だった。しかし二人の話から、柄谷行人の振舞、磯崎新・浅田彰・岡崎乾二郎の話し等、面白く知る事ができた。柄谷行人独壇場であったようだ。元気づけて良かった。十一時半歯医者。友美と車で一緒に行く道

中で、昨日の磯崎新のマレーヴィチに関するレクチャーの概要を聞く。よく整理して話してくれたので理解できた。マレーヴィチの黒と白のアイコンの下にはマリア像が描かれていた話は初めて聞いた。磯崎さんは相変わらず知的好奇心旺盛だな。歯医者、知美共々終えて、多摩プラーザの山口勝弘を訪ねる。マレーヴィチの話しを聞いて、その足で遅れて生まれたシュプレマティストの許を訪ねるのも面白い。人生は面白い偶然の集積だ。しかし、磯崎さんのレクチャーにあったというマレーヴィチデザインの高層ビルの上のレーニンのアイコンの話し、そのアイコンに対するマレーヴィチの意識の仕方の話しは面白い。

十四時半多摩プラーザに山口勝弘訪問。山口さんはマレーヴィチの黒の下に封印されたマリア像の事は知らなかったと言う。やはりとても関心を示され、再三その話しにテーマが戻るのだった。山口さんはマレーヴィチの黒と白のマリアはブラック・マリアに違いないと言うのだった。十七時半世田谷に戻る。自民党総裁選は小泉首相が再選。

九月二十一日 日曜日

一九九五年八月十六日の究極の家スケッチに重ねてエスキスする。手を動かしているうちに、手が描いてしまう偶然の重なりの中からアイデアが生まれてくる事がある。まして八年前のスケッチの上に重ねてスケッチするのだから、八年という時間のへだたりも又味方してくれる。いくつかのアイデアを得る。いつか、時を待てば実現できるだろう。午後小田急デパートに家具を見にゆく。遅い昼飯のウナギを喰べて帰る。台風が近付いていて雨、寒い位の日だった。小泉自民党総裁の内閣改造人事が面白い。この人は機を見るに敏だな。勝海舟の如き合目的な思考を貫くこと

ろがある。大きなヴィジョンは感じられないが、その場、その時
をくぐり抜けるのには自由な才を発揮するんだな。